

図1

「メタボリックシンドローム」の患者は 心血管系疾患の危険度が1.8倍も高い

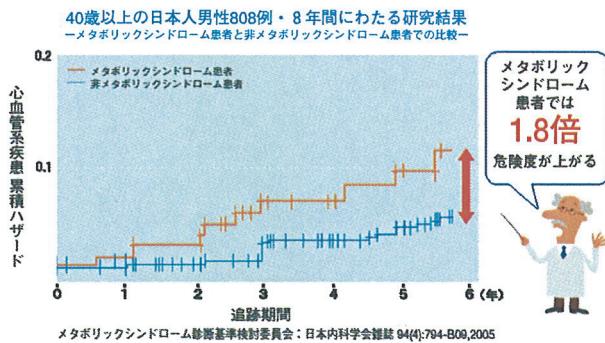
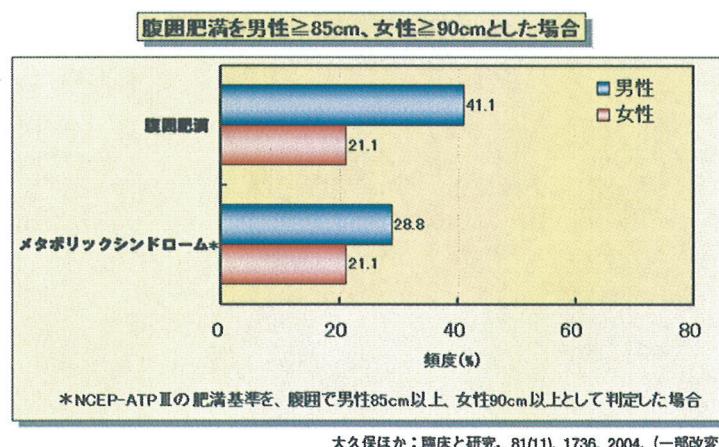


図2

久山町住民における メタボリックシンドロームの頻度



久山町（福岡県）住民における調査では、腹囲肥満は男性41・1%、女性21・1%でメタボリックシンドロームの頻度は男性28・8%、女性21%でした（図2）。また、端野・壮瞥町（北海道）研究では40歳以上の男女の各危険因子とメタボリックシンドロームの頻度を見ると、血圧高値が最も高頻度であり、メタボリックシンドロームは未服薬者で男性18%、女性6%を示しました。メタボリックシンドロームは日本においても心血管系疾患発症予防に重要な概念であり、新基準を用いた今後の検討成績の集積が待たれます。

（つづく）

へるすの時代 第5回

メタボリックシンドロームの患者は、 心血管系疾患の危険度が高い！

宮城社会保険病院 健康管理センター長

小野美明

日本の基準におけるメタボリックシンドロームの現状を見ると、メタボリックシンドローム診断基準検討委員会での40歳以上の日本人の男性808例・8年間にわたる研究結果ではメタボリックシンドロームの患者は非メタボリックシンドロームの患者と比較して心血管系疾患の危険度が1・8倍も高いことがわかりました（図1）。

現在、日本人の約30%の人々が「心血管系疾患」で亡くなっています。また、「寝たきり」の原因の第1位が脳血管疾患で30%以上を占め、その後遺症に悩む患者さんは、約170万人とも言われ、少子・高齢化が進む日本の大きな社会問題ともなってきています。

「心血管系疾患」とは、心臓や脳の血管で生じる病気で、「動脈硬化」によって、心臓では狭心症や心筋梗塞、脳では脳梗塞が発症します。

食生活の欧米化に伴い、日本人の脂質摂取量は、適正域を上回り、米国人に近づきつつあり、健康診断で、検査値に何らかの異常を示した「有所見者」の割合が、約2人に1人と年々増加してきています。

久山町（福岡県）住民における調査では、腹囲肥満は男性41・1%、女性21・1%でメタボリックシンドロームの頻度は男性28・8%、女性21%でした（図2）。

また、端野・壮瞥町（北海道）研究では40歳以上の男女の各危険因子とメタボリックシンドロームの頻度を見ると、血圧高値が最も高頻度であり、メタボリックシンドロームは未服薬者で男性18%、女性6%を示しました。メタボリックシンドロームは日本においても心血管系疾患発症予防に重要な概念であり、新基準を用いた今後の検討成績の集積が待たれます。